

# 令和6年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 中島 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

| 教科に関する調査（国語、算数）   |
|---|
| ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 |
| ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容                |

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問調査

| 児童質問調査                         |
|--------------------------------|
| ○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

※本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

| 本年度の結果 | 国語    |       | 算数    |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|
|        | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市     | 9.3   | 66    | 9.6   | 60    |
| 全国     | 9.5   | 68    | 10.1  | 63    |

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

| 教科 | 全体的な傾向や特徴など | 分析  |
|----|-------------|---|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | ・全体的に、全国平均を下回っている。<br>・「書くこと」領域は、比較的正答率が高い。「話すこと・聞くこと」領域は、正答率が低い。<br>・問題形式として、記述式は比較的正答率が高い。<br>・選択式問題で無回答率が全国平均を上回っているものもあるが、全体的に無回答率は全国平均を下回っている。 |
|    | よくできた問題     | ・目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題は正答率が高い。   |
|    | 努力が必要な問題    | ・資料を活用して自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題は、正答率が低い。  |
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | ・全体的に全国平均を下回っている。<br>・「変化と関係」領域は、比較的正答率が高い。<br>・問題形式として、選択式は比較的正答率が高いが、記述式は正答率が低い。<br>・記述式、短答式で無回答率が全国平均を上回っているものもあるが、全体的に無回答率は全国平均を下回っている。         |
|    | よくできた問題     | ・除数が小数の割り算の計算、速さの意味についての問題は、正答率が高い。   |
|    | 努力が必要な問題    | ・資料を読み取って記述する問題は、正答率が低い。  |

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

| 質問調査の結果分析  |
|--|
| ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の問いに対して約95パーセントの児童が肯定的に回答している。<br>・学習面に関しては、「PC・タブレットなどのICT機器を活用して、楽しみながら学習を進めることができる」の問いに対して90パーセントの児童が肯定的な回答をしている。今後もICT機器を活用した授業を行っていく。<br>・家庭学習に関しては、「学校の授業時間以外に平均1日当たりどのくらい勉強をしていますか」「休日に1日当たりどのくらい勉強していますか」の問いに対して、学習時間が少ない回答が多くみられた。今後も、家庭学習について学校全体で取組を進めていく。 |

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- 基礎学力向上のため、国語、算数の既習の学習内容の定着を図る。
- 朝自習の時間に新聞記事の要約をすることを通して、資料を読み取る力を育てる。
- 学習形態や、個に応じた支援の工夫を図ること、意欲的に学習する態度を育てる。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 各学年の学習内容を確認し、家庭学習の内容や量について全教職員で共通理解を図り、全校の取組としていく。
- 自尊感情を高める活動を、全校で取り組む。
- 児童や保護者を対象に実施しているアンケートを通して、児童の生活の実態を的確に把握し、取組を進めていく。